

# LinuxCon Japan 2012 レポート

2012年6月21日(木)

パナソニック株式会社  
加藤 慎介

- **LinuxCon Japan 概要**
- **Keynote Report**
- **Session Report**
- **その他 (雑感など)**

- **LinuxCon Japanとは？**
  - Linuxの技術についての国際技術会議
    - エンタープライズ系のLinuxがメイン
  - 主催はThe Linux Foundation
  - 著名なKernelメンテナーや、世界中のLinux技術者が多数参加
- **開催日時:6/06(水)～08(金)の3日間**
- **場所:パシフィコ横浜**
- **参加費:300ドル(早期割引有り)**
- **参加者:登録者は650名とのこと**
- **Keynote, Session**
  - Keynoteは約10個, Sessionは5～6会場同時開催, 3日間で約70個
- **参考**
  - Conferenceのプラチナスポンサー:NTT Docomo, 富士通, 日立, NEC, Intel

- スケジュールとスライドPDF (Videoも今週公開予定) :  
<https://events.linuxfoundation.org/events/linuxcon-japan/schedule>
- Photo:  
<http://www.flickr.com/photos/13825348@N03/sets/72157630045869407/>
- 各種サイトより  
<https://jp.linux.com/whats-new/linuxcon-japan-2012>  
[http://cloud.watch.impress.co.jp/docs/event/20120607\\_538370.html](http://cloud.watch.impress.co.jp/docs/event/20120607_538370.html)  
[http://cloud.watch.impress.co.jp/docs/event/20120611\\_539322.html](http://cloud.watch.impress.co.jp/docs/event/20120611_539322.html)  
<http://gihyo.jp/dev/serial/01/linuxcon2012/report01>  
<http://gihyo.jp/dev/serial/01/linuxcon2012/report02>
- Togetter  
1日目: <http://togetter.com/li/316126>  
2日目: <http://togetter.com/li/316663>  
3日目: <http://togetter.com/li/317232>

- **Title : Welcome & Introduction**
- **Speaker : Jim Zemlin**
  - Executive Director at The Linux Foundation
- **概要**
  - SamsungがLinux Foundationのプラチナメンバーになったことが紹介された
    - プラチナメンバーシップは年間50万ドル
  - 電源を入れていないスマホ, 違いはわからない. 電源をいれると違いがわかる. 特徴を提供するのは「ソフトウェア」
  - 一見ClosedにみえるAppleは, 実はOSSを活用している

- **Title : Expectations for Tizen**
- **Speaker : Dr. Kiyohito Nagata**
  - Senior Vice President, NTT DOCOMO
- **概要**
  - **前半はドコモのビジネスの話**
    - 端末は1台で対応することを考えていない。お客様に選んで欲しい
    - ドコモのサービスはクラウドに舵を切る
    - そのためにオープンなものが必要 → Tizen
  - **ドコモがTizenに期待すること**
    - HTML5, Openness, Innovation and Differentiation, Industry Leaders Support
- **感想・メモ**
  - **ドコモが何をやるのか, の発信はなかった. 要求はTizen Associationに出して, 実装するのはメーカー・ベンダーという構図, と感じた.**
  - **「HTML5」キーワードを強調していた (デバイス関係なくアプリが動く環境を要求)**

- Title : Linux Kernel Maintainers: What They Do and How You Can Help Them
- Speaker : Greg Kroah-Hartman
  - Fellow at The Linux Foundation (著名なメンテナー)
- 概要
  - カーネルコードの開発
    - 3.0から3.4リリースまでの1年間で、2833人の開発者 (373 Companies) が参画
    - 1時間当たり7.21のパッチ取り込み
    - Gregがこの2週間 (比較的忙しくない時期) で受理したパッチ:487個
  - この2週間で受け取った中から、ダメなパッチ投稿の実例紹介
    - 48/48で48個目しかない、15のパッチで順番がばらばら、Confidentialと書いてある、Tabがスペースに変換されてる、古いVersionに対するもの、コードスタイルが合っていない、コンパイルできない、ビルドできないパッチで修正は後で送る、1つで4500行のパッチ、など
  - 結論
    - パッチ投稿のルールを守って！
    - パッチを取り込まない理由が見つからない！というようなパッチを投稿して欲しい
    - メール (やコメント部分) にはWhyを書いて！ (WhatはPatchをみればわかる)
- 感想・メモ
  - Linuxコミュニティにもいろいろとプロセス・ルールがあるが、それが守られていない。よってメンテナーが辟易する、という内容
  - 非常に面白く、会場のウケもよかった
  - PDFではNote形式でGregの発言内容も記載されています！  
[https://events.linuxfoundation.org/images/stories/pdf/lcjp2012\\_kh\\_maintainer.pdf](https://events.linuxfoundation.org/images/stories/pdf/lcjp2012_kh_maintainer.pdf)

- **Title : Linux: At the Forefront**
- **Speaker : Brian Stevens**
  - CTO and vice president, Worldwide Engineering at Red Hat
- **概要**
  - Red Hat は2012年10億円の売り上げ
  - 金融取引の50%, Fortune500の80%, がRHELを採用
  - 特定ベンダーのロックインがなかったこと, Red Hatが長期サポートしたことが成功の要因
  - クラウドを実現するのは Linux



- Title : Collaboration in the Open Source World
- Speaker : Tsugikazu Shibata (NEC)
- 概要
  - エンタープライズでのLinuxの歴史
    - 2002年:顧客のFeatureにどう対応する?, 変更後のソース管理は?, ミドルウェアのサポートもない, ハードウェアは特定のもののみサポート
    - 複数のベンダで同じバグを管理, 情報共有されない
  - 上記を解決するのがLTS (Long Term Stable)
  - では, 組み込みでは?
    - かなりカスタマイズする. SoCにも依存
    - Androidの登場
      - Versionアップのスピードが速い
      - Kernel開発はより複雑化. Googleのパッチ, SoCのパッチ, ベンダーのパッチ, BugFixのパッチ, これらを全て適用してProduct Kernelになる
  - 上記を解決するのがLTSIプロジェクト
    - 最初のLTSIは3.0をベースにリリース (6月末)
    - 次のLTSIは3.4をベースにリリース
    - Tizen, Androidにも「LTSI 3.4」を使うように提案していく

- Title : Virtualization Advancement With Linux
- Speaker : Jim Wasko
  - Director, Linux Technology Center at IBM
- 概要
  - クラウド・仮想化では・・・
    - ビジネス側:早いサービス提供, ビジネスプロセスの改善
    - IT側:標準化, 自動化, IT統制・ポリシー
  - 2007年:KVMがUpstreamに
  - KVMを使うメリット
    - トータルコストが安い, エンタープライズでのパフォーマンス・スケーラビリティ・セキュリティが良い, Openである(ベンダーロックインを避けられる), ツールが充実
  - Open Virtualization Alliance (仮想化推進団体):HP, IBM, Intel, Redhat がメインで推進
  - KVMではツールも充実しだした
  - クラウド実装
    - Integrate (統合) → Automate (自動化) → Optimize (最適化) → Orchestrate (組織化)

- Title : Linux Distribution Panel
- Paneler : Alan Clark, SUSE; Bdale Garbee, HP; David Mandala, Canonical; Jon Masters, Red Hat; Moderated by Brian Warner, The Linux Foundation
- **メモ**
  - SUSE
    - 「Linuxを信じること. それが成功に繋がった」
    - 顧客に選択肢を提供すること. 品質確保. ベンダーロックインはNG (選択肢が狭まる)
  - Debian
    - 団体・コミュニティを立ち上げるときに考えること: Social Contract (共通価値観は何か? をStateする)
    - コミュニケートをオープンに. 意思決定プロセスと, それが見えるか? が重要
  - Ubuntu
    - マイクロサーバ. 小さなCPUを足すことで対応する, 消費電力を節約できる
  - Fedora
    - イノベーションの場

- Title : International / Asian Kernel Developer Panel
- Paneler : Arnd Bergmann, Linaro; Masami Hiramatsu, Hitachi; Chris Mason, Oracle; Cong Wang, Red Hat  
Moderated By James Bottomley, Parallels
- **メモ**
  - PerfectはGoodの敵
  - Featureを説明できること
  - パッチは細かく分ける. そして順に説明する
  - 時差の問題. でも時に時間があるほうが良い場合もある (考える時間がある)
  - 日本の技術者は完璧を求める傾向 (子供のころからテストでは100点を求められる)
  - Just Do It.
  - Linuxを自分のものと思うこと

- **以下, Sessionより(抜粋)**

- Title : How The Linux Kernel is Developed
- Speaker : Greg Kroah-Hartman (The Linux Foundation)
- **概要**
  - Keynoteの詳細版
  - 3.0.0→3.4.0の
    - パッチ投稿Top10, 1位 Mark Brown 1026、3位のK.Y.Srinivasan はMSの人
    - Signed-off-by Top10, 1位 Greg 4767
  - Kernel開発参加のために・・・
    - 最新のKernelをPCで動かそう、Howto本「LINUX KERNEL」があるよ (Free Online)
    - Documentation/以下のドキュメントを読もう
    - Kernelnewbiesを見よう
    - Googleで「write your first kernel patch」で検索しよう。VideoがHitする
- **加藤感想**
  - 最初に「みんな、寝ないでね」とコメント, お茶目な面も

- Title : Introduction to Tizen IVI
- Speaker : Toshiyuki Mitsue, Intel
- **概要**
  - IntelはTizenでAutomotive IVIに取り組む
  - なぜTizenでIVIか？
    - コスト削減, カスタマイズによる差別化の容易性, サービス・アプリの追加の容易性, HTML5でのアプリエコシステム
  - Tizen IVI Architectureのキーポイント
    - マルチメディアのResource Policy, BaseセットのStarup, TelephonyのFramework, Automotive向け技術全般 (Automotive Network, Text-to-speech, GENIVI), GUI (Window Manager, Windows System)
  - Tizen IVI のロードマップ
    - 2012年9月末:Feature Complete, 12月末:1.0 Final
- **感想・メモ**
  - まだ「紹介」という感じ

- Title : The Business of Contribution
- Speaker : Bdale Garbee, HP
- 概要
  - Levels Of Open Source Project Engagement
    - Take code & run
    - Monitor ML
    - Fix bug & respond to mailing list questions
    - Help build enhancements
    - Lead enhancements contribution
    - Lead/manage Project or subsystem
  - What open source developers want
    - Difficult to characterize, since we're all so different
    - Some common element
      - Scratching itches, Not working on a schedule, Collaboration / sharing
    - Personal reputation
  - What Companies need
    - Revenue, Growth, Differentiation, Corporate reputation
  - Remember, "Open Source" is not a business model
- 感想・メモ
  - 発表内容は良くわかるが、企業がそこにたどり着くのが困難・・・



- **Session: What Developers, Cars & Banks Have in Common: Best Practices for Open Source Governance**
  - OSSを避けることは自身のビジネスを不利にする
  - 各業界でOSSコミュニティが発達
  - 自動車業界 (GENIVI), 金融業会 (OPENMANA)
- **Session: License Unclearities: It's Not Just a Lawyer Thing**
  - ライセンス条件について不明確なものが多い
    - ライセンス条件がない
    - 誤って再許諾されている
    - 簡易に解釈されている
- **Session: Streamlining Open Source License Compliance with SPDX**
  - サプライチェーンに存在するソフトウェアの詳細なライセンス/著作権情報をリストする標準フォーマットを定義している。
  - 時間とコストをかけずにコンプライアンス向上が図れる。

- **Session: Free and Open Source Software Law – Then, Now, Next**
- **Session: Introducing the Binary Analysis Tool**
- **Session: Development of Legal Approach to OSS in Korea**
  - **2000年代に入って、政府 (NIPA, KCC) によるOSSサポートが始まった**
  - **2009年busybox case in USAにより社内コンプライアンス意識高まる**
  - **2010年KOSS LAW CENTER設立. OSSに関するガイドライン、ブックレットの発行による啓発活動**
  - **FSF SFLC FSFE gpl violationsとは、KOSSは既にMOUを取り交わして交渉の窓口になっている**

- Title : Panel Discussion: Open Source Legal
- Panelists : Akira Takao, Panasonic; Yoshio Sonoda, Kenwood; Jong Baek Park, Korean OSS Law Center; Ms. Florece Ko, OSSF Taiwan; Armijn Hemel, Tjaldur Software Governance Solutions; Moderated by Shane Coughlan, Opendawn
- 内容抜粋
  - サプライチェーン, 産業横断的なコンプライアンス問題にSPDX活用すべき
  - 「アジア企業のOSSコンプライアンスをどう評価します？」→「向上してきている. が, 違反も増えている. チップセットベンダーが原因では？」
  - 委託先のベンダーが商品にどんなソフトを載せようとしているか把握する必要がある. リーガルとエンジニアの専門用語の違い, 言語の壁がある. リーガルはソフトや製品について学ぶ必要がある. 組織再編後に, 元の企業文化・哲学の違いがOSSコンプライアンス活動の差にあらわれる
  - エンジニア:ビジネスへの無関心, リーガル:OSSに対する正確な知識の欠如, 政府もOSSに対して困惑, 3者のギャップをどう埋めるかが課題
  - 台湾企業の場合, 中国語でOSSの情報が必要. ドキュメントの翻訳は一つの解決策。
- メモ
  - 自動車業界でのOSSコンプライアンス  
GENIVI Allianceでもサプライチェーンにある全ての会社にSPDXの利用が必須になっている等, 今後自動車メーカーのOSSコンプライアンスの要請が強くなりそう
  - SPDXの運用  
バージョン2.0は年内で策定. 必ずしも全ての項目を埋めなければならないものではない

- **仮想化, Tizen, が今年の強調テーマと感じられた**
  - 仮想化Mini-Summitが2日間開催
  - Tizen Mini-Summitが1日間開催
- **トヨタ (Linux Foundation ゴールドスポンサー) から, ConferenceのSteering CommitteeにMurata氏, Program CommitteeにHoshina氏が参画. KeynoteやSessionはないものの, 業界への参画はしっかりやっていく意図が感じられた.**
- **今年はOpen Compliance Mini-Summitとして, OSSコンプライアンスのセッションが開催**
  - 特に, 自動車業界のOSSコンプライアンス推進が強調されていた
  - 韓国では (Busyboxの件が契機で) OSSコンプライアンス推進に力を入れ始めた

# Thank you !

# Panasonic

ideas for life

My e-mail address  
[kato.shinsuke@jp.panasonic.com](mailto:kato.shinsuke@jp.panasonic.com)

